

B. Kyoto Group (Yamada)

シラード (イルカの音) stable deterance

- instrumental の習得はけり継ぎた... 改定"入"る。
- 一般大衆のむね、理想をぬき、12字をうたふ。

stable deterance の分類

1. 無制限的な stable deterance (genuine " ")
兵器として安定なものを用発(保身可)
2. arm control の 1.2" の deterance
3. quasi-stable deterance
全軍統制の step 2 の stable deterance

1°: stable 2" のあり得た。

改定進歩の素に及ぶ。南極発走の強くなる。 unstable
軍備に絶望に核戦争を勝つべく。

↳ war-winning の力をもて

Pentagon で奮力に及ぶ、あまの

予防戦争の新版

↓ 74% の核戦争力 > Y " "

又"基地を6P< (Y の報復力 < 70% の 2P<) counter-force

↓ Y の報復力 < 70% の 2P< の counter-city の出来。

genuine-deterance の必然的帰結

偽装. 能率戦争に次ぐため。

合理的行動を前提としている。----- 戦争の「史」の体系的合理性

の"あ"る不合理な"戦"の"あ"る。

戦争の道を開く。

2° arm-control の 1.2" の deterance

- Y 国: あまの軍予戦争をむすぶ
- P 国: top 1" の一応の軍予戦争をむすぶ?
 - B-70 の処置 > maximum + 70% の 12" の 2" ?
 - 空軍は 1°

P 国は 1.2" の軍備に及ぶ trouble の処置
相互対策

12 p 5'

weak-condition

軽兵器の deterance を持つ。 等。

- 1° control inspection の困難
- 2° 一部用が壊すと全部が壊れる。
- 3° trouble の処理に使う。
- 4° 恐怖の下で control 可能にしている。心理学的効果の effect を認めた。 (P. 40 の psychologist)

3° quasi-stable deterance

違反に処罰対象

運送手段を決定できることは出来た。

inspection の prob. $\ll 1$ である。

大規模違反の研究に及ぶものはさらに強くなる。これはない。

軍縮の next step とその plan.

1. Blacket 案 (似ている)

philosophy はよく知られる。

A. 海外軍事基地を撤廃 通常兵器の削減 (大巾) ↑ が重要

B. 軽兵器の stable deterance の part を減らす

100 は減らす 200 は減らす

運送手段の大半は航空機

MIT で見たこと

違反対象

金型査察の時期... 第一段階の結果は

2. 地域別軍縮案

各 part は最終段階を待つ。 非の stable

deterance. (Fugate)

Random

↓
第一 非武装地帯を作る。

これは同盟に有利なことを示す。

12p6'

G-Y-3.

3. スエーデン、ソ連、etc 中絶時に deferance 受けた。

Kyoto discussion

1. 井植武蔵地帯は非常に大規模な「意味」がある。
2. 時期は12月10日 - 1957年2月10日頃である。

anti-anti micile

1. 南米、研究に必要。